



# 稲城市立小中学校のESD取組事例を紹介します

## ESDとは？

「ESD」は「Education for Sustainable Development(持続可能な開発のための教育)」の略であり、大規模災害や環境破壊、エネルギー問題等の現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動です。

稲城市立学校では、  
「ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」として取り組んでいます。

## 稲城市のESD

**視点** 問題解決能力の育成・つながり・探究・思考力、判断力、表現力等

**題材** 国際理解・環境・自然・人権・地域・防災等

稲城市の地域的な特色(起伏に富んだ地形、梨やぶどう等の生産、里山、地域のつながりや伝統・文化)を生かして、ESDに取り組んでいます。今後、当紙にて各学校のESD取組事例を紹介していきます。

### 若葉台小学校

#### 総合的な学習の時間 「大好き！若葉台小学校」

本校では、「大好き！若葉台小学校」と題し、7月17日(水)に3年生が総合的な学習の時間に若葉台小学校の魅力に迫りました。発表会では、インタビューや調べ学習を通して分かったことを伝え合い、新たな発見や驚きに出会えました。授業の後半には、本校の建築に貢献された東京都立大学名誉教授上野淳氏をお迎えし、質問会を行いました。

レンガや木で建てられた校舎、開放的なオープンスペースや図書ホール、時計台や三角屋根等、若葉台小学校の特徴はどれも、自分の家のようにのびのびと安心できる学校であるように、自由に様々な学び方ができるように、地域に愛される学校であるようにと、あたたかな願いや思いが込められていることを知り、素敵な学校に通う喜びを改めて実感できた子ども達でした。



### 稲城第三中学校

#### 地域の一員として活躍する生徒を 育てる～地域連携型防災訓練～

本校では、防災についての意識を高め、地域の方々とともに、地域の一員として活躍する生徒を育成するために、全学年で地域防災訓練を行っています。

今回は、稲城消防署や稲城市赤十字奉仕団、稲城市社会福祉協議会、自治会の方に協力していただき実施しました。

7月4日(木)、2年生は初動対応資機材の扱い方について学習しました。ひなんルームや段ボールベッド、発電機等の避難所で使用されるものや、火災が起こった際に初期消火として扱う水消火器の扱い方を学びました。

7月9日(火)、3年生は応急救護訓練の視点で学習しました。三角巾の使い方と毛布担架の作り方、救助に向かうための危険性を学ぶ煙体験、共助のために高齢者の身体機能を学ぶ福祉体験を行いました。

なお、1年生は11月に非常時の防災意識を高める目的で訓練を実施予定です。

稲城第三中学校は、避難所に指定されております。実際に避難所として開設されたときに、生徒達が今回学んだ知識を生かし、地域の一員として活躍してくれることを期待しています。



### 北海道大空高等学校 校長講演会 & 学校説明会を開催します

ご参加ください

稲城市の姉妹都市「北海道大空町」の町立高校「北海道大空高等学校」の大辻雄介校長が、稲城市で講演会を開催します。

当日は、大空高等学校の説明会も同時開催し、学校の様子や大空高等学校への進学に関する質問にもお答えします。

どなたでもご参加いただけますので、皆さまご自由にご来場ください。

講演会：主体的な学びのススメ「越境と探究」  
日時：9月30日(月)午後6時～7時  
会場：地域振興プラザ 4階 会議室  
参加対象：稲城市内の小・中学生とその保護者  
近隣の小・中学生とその保護者  
学校の先生方  
※一般の方もご参加いただけます。



大辻校長

▷問合せ 教育総務課

### 令和6年度児童・生徒表彰の推薦を受け付けています

教育委員会では、毎年度児童・生徒表彰を実施しています。

令和6年度中に推薦基準に該当する成績等がある方は、在籍する市立小・中学校に推薦書や必要書類をご提出ください。

推薦書は各校から配付されるほか、市ホームページでも入手できます。  
※市立小・中学校以外の学校に通学している方は、下記までお問い合わせください。

#### 【表彰基準】

次のいずれかに該当すると委員会が認める個人又は団体

- (1)人命救助又はこれに類する行為を行った者
- (2)稲城市立学校の児童及び生徒の名誉を高め、他の模範となるべき行為のあった者
- (3)学術・文化・スポーツ活動において、著しい成果を収めた者
- (4)前各号に掲げるもののほか、特に表彰することが適当と委員会が認めた者



市HP

▷問合せ 教育総務課



教育長コラム

No.06



「シビックプライド」の姿に学ぶ

日々、地域・市民の皆様からの、学校や子ども達への温かいご支援を実感しています。今回はまず、最近出会った二つの出来事をご紹介します。

①令和6年7月16日、教育委員会は、「令和6年度 第1回学校運営協議会委員 会長研修・連絡会」を開催、各校の学校運営協議会(以下「協議会」)会長の皆様が、互いの協議会運営について情報交換するとともに協議会の在り方等について意見交換を行いました。当日の、協議会長からのご報告、また、グループ協議におけるご発言の一部を紹介させていただきます。

「子ども達が今学んでいることが、今後どう生かされていくかを、協議会で考えています。」「部活動『働き方改革』『不登校』について協議しています。」「英語学習等、地域の人の力を生かす機会を増やしていきたいです。」「地域と学校の互いの思いを繋げるのが、協議会の務めと思っています。」「生徒・保護者向けの『LINE相談窓口』を開設しました。」「稲城市は新しい人を受け入れる態勢があります。協議会が、『新しい風』を受け入れる役を担っていきます。」「校長先生としっかりと組んで、学校を改革していきたいです。」

それぞれのご発言は、地域で暮らし、社会に活躍する方々ならではの視点に基づくお考えやアイデアであり、さらに、協議会の力を生かし学校の運営をしっかり支えていこうとのエネルギッシュなエールでありました。加えて、各中学校長の経営方針への深いご賛同のお声も複数いただきました。

「学校運営協議会」とは、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき設置し、学校運営協議会を設置している学校をコミュニティ・スクールと称します。保護者や地域の方々が、一定の権限と責任をもって学校運営に参画する仕組みです。その主な役割としては、「学校運営の基本方針を承認する」「学校運営に関する意見を述べることができる」「教職員の任用に関し意見を述べるができる」「旨、定められています。稲城市では、令和4年4月1日に市立学校18校に「学校運営協議会」が設置され、全校がコミュニティ・スクールになりました。なお、協議会委員につきましては、「稲城市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」において、地域住民・保護者・地域学校協働活動推進員・校長等から5人以上10人以内を、校長の推薦により教育委員会が任命することとしています。

このように、「学校運営協議会」は、学校の教育活動・運営について協議・審議を行う組織です。現在、全国の導入状況は、公立学校全体で協議会設置率52・3%(令和5年度データ、文部科学省による発表)、しかしながら、「十分な協議が行われていない形式的な学校運営協議会も見受けられる」「学校からの形式的な報告が中心となっている場合がある」「コミュニティ・スクール

の在り方等に関する検討会議最終まとめ「令和4年3月、文部科学省」とされ、さらなる質的向上の必要性も指摘されています。そのような全国的な状況の中において、本市の学校運営協議会は、「基本方針の承認」や「学校運営への意見を述べて、学校運営に関する課題を具体的に解決していきましょう」との姿勢のもと、実に活発な協議が展開されているのです。私は、委員の方々が、それぞれの「得意分野」について発信しながら主体的に協議を展開されていることに、深く敬意と感謝を感じました。

②私は教育長就任以降、市内の様々な会議に出席する機会をいただいております。そのような中、稲城市商工会・奈良部義彦会長の、「コロナ禍」さらに「アフターコロナ」という困難な状況ですが活気ある稲城市の「シビックプライド」をもちながら新たなビジネスチャンスの創出に向けていきましよう、という、市内事業所の方々に向けられた力強いメッセージを度々拝聴しました。また、様々な会合において、市内の事業所経営者の方々から、事業発展への思いや方策を伺い、大変学ばせていただいたてまいりました。このような出会いを重ね、私は、「本市で事業展開される方々から、稲城市の子ども達が、直接、『起業家の精神』というものを学ぶ機会をつくりたい」という思いを抱くようになりました。そこで、昨年度末、奈良部会長のご高配を賜り、稲城市立中学校「職場体験」について新たな受入事業所の拡大をご相談申し上げましたところ、令和6年度の実施に向け多くの稲城市商工会員の皆様にご快諾をいただき、事前に、「職場体験楽しみのツブのプログラムを作成しまし

た。」というお声などもいただきました。起業家・経営者としての知見に裏付けられたご指導は、子ども達にとって貴重な学び・体験となることと、大変ありがたく存じます。

学校運営協議会委員、職場体験受入事業所の皆様に共通しているのは、「地域に暮らし、社会に生きる視点」を基盤に、学校を、子ども達を、そして稲城市を、社会全体を、自らのお力をフル回転させ向上させていくことの、熱いご意思です。まさに、「シビックプライド」、そのお姿を周知にすれば、本市の子ども達も自らの「シビックプライド」を培い磨き上げていけるのではないかと、希望に胸が高鳴ります。

また、ここに紹介いたしました事例は、最近の新たな連携であり、本市の教育は、これまでも長いこと、地域・保護者の皆様から厚いご支援を賜ってきております。梨・ぶどうの栽培や米作り等の体験学習にご指導くださる皆様、既に以前から職場体験を受け入れてくださっている皆様、地域教育懇談会、PTA、学校支援コンシェルジュの皆様など、多くの方々の、学校と子ども達へのご支援の積み重ねが、さらに多くの方々に広がり、新たなご支援に繋がっていることを感じております。

改めまして、ご本業等にご多用の中のご支援にお礼を申し上げますとともに、皆様のお力・お姿を、「シビックプライド」の精神を備えた、持続可能な社会の創り手の育成に繋げてまいります。

稲城市教育委員会教育長

杉本真紀子

学校における働き方改革へご理解・ご協力をお願いします！

子ども達に効果的な教育活動を行うためには、教員が健康で生き生きと働くことが大切です。

稲城市教育委員会では、令和5年3月に「第二次稲城市立学校における働き方改革実施計画(計画期間:令和5年度～令和7年度)」を策定し、本計画に基づき、教員の働き方改革を行っています。

～働き方改革の必要性～

教員の勤務時間：8:15～16:45(※)  
(休憩45分)

勤務時間外の授業準備、  
登下校指導や課外活動生活指導等

長時間労働(課題)

計画に基づく取組

児童・生徒と向き合う時間、  
授業等に充てる時間を確保

心身ともに健康を保てる  
職場環境を再構築

学校教育の質の向上



※ 早朝や16時45分以降は勤務時間外となります。  
※ 勤務時間の割り振りは学校によって異なります。

～現在取り組んでいること～

1 勤務時間外における電話音声対応メッセージによる自動応答(市立小中学校全校)

教員の勤務時間(8:15～16:45)外は、学校への電話は、電話音声対応メッセージによる自動応答となります。

音声応答となる時間

月曜日～金曜日 8:15～16:45以外で学校が定める時間  
土曜日、日曜日及び祝日 終日  
※児童・生徒に係る事件・事故等で急を要する場合は稲城市役所代表(042-378-2111)へご連絡ください。

2 夏季休業期間中における学校閉庁日の設定(市立小中学校全校)  
学校の教育活動等を行わない夏季休業期間中で、学校が定める任意の日(期間)を、学校閉庁日としています。

3 部活動の活動時間や休養日の基準設定(市立中学校全校)  
部活動の活動時間や休養日を設定し、部活動を運営しています。

学校現場では、「地域とともにある学校」を理念に運営を行っておりますが、働き方改革の推進により、教員によるこれまでと同様の対応が困難となることも出てまいります。子ども達と向き合うための時間や、授業準備の時間を確保できるよう一層の取組を進めてまいります。保護者・地域の皆様におかれましても、次代を担う子ども達のため、働き方改革に対するご理解とご協力をお願いいたします。

▷問合せ 教育総務課



野沢温泉村宿泊体験学習に行ってきました

稲城市立小学校の6年生が、稲城市の友好都市である長野県野沢温泉村に3泊4日の宿泊体験学習に行ってきました。1泊目はスタカ湖の湖畔でキャンプをし、2・3泊目は村内の民宿に宿泊しました。豊かな自然や伝統文化の学習、民宿の方々とのおふれあいや他校の友達との交流を通して、たくさんの思い出ができました。また、集団生活を通して仲間を思いやる気持ちや自分を見つめ直す機会にもなりました。

**<1日目>** スタカ湖キャンプ場に到着し、開校式を行いました。植樹体験ではブナの木を植えました。これまで野沢温泉村を訪れた先輩方が植樹した木々が大きく成長していました。飯盒炊爨(はんごうすいさん)では、カレー作りをしました。民宿のお父さん、お母さんのご指導のもと、手際よく調理ができ、おいしいカレーをお腹いっぱい食べることができました。夜は、キャンプファイヤーやレクリエーションを楽しんだり、満天の星空を眺めたりと、大自然ならではの体験ができました。夜は涼しくなり、テントでの宿泊も快適でした。

**<2日目>** 午前は、トレッキングをしました。民宿のお父さん、お母さんにガイドをしていただき、草花やブナ林について教えていただきました。ゴンドラに乗って下山をする途中の景色は、野沢温泉村が一望でき、大きな空と遠くの山々のコントラストが大変きれいでした。午後は、温泉街の散策、外湯巡り等、グループごとに楽しみました。夜は、民宿のお父さん、お母さんから、野沢温泉村の道祖神祭り(日本三大火祭りのひとつと言われている)について教えていただいたりして、民宿ごとに様々な体験をしました。

**<3日目>** 野沢温泉村の伝統工芸品である、「つる細工」つくりの体験

7月22日(月)～8月2日(金) 稲城市立小学校6年生

で籠をつくりました。つるの色や籠の太さを工夫することで、一人ひとり個性あふれる作品ができました。お昼ご飯は、郷土料理である「笹寿司」「いもなます」をいただきました。笹の葉の上に酢飯、卵やゼンマイ、でんぶ、豚肉、紅しょうが等に乗せ、箸を使わずそのまま口に運ぶのが本来の食べ方です。笹の葉には抗菌作用があり昔の人たちの知恵が伺えます。

**<4日目>** 閉校式では、民宿のお父さん、お母さんや観光産業課のみなさんに楽しかった思い出と感謝の気持ちを伝えるとともに、送り出していただいた東京にいる家族を思いながら、改めて感謝の気持ちをもちました。

中学1年生になると、同じ野沢温泉村で3学期にスキーやスノーシューの体験をする宿泊体験学習があり、民宿のお父さん、お母さんに「おかえりなさい」と出迎えてもらえます。

冬は、雪で景色が一変する白銀の世界になります。野沢温泉村はスキー場としてとても有名で、過去にはオリンピックが開催されている場所です。来年訪れた際には、再び大自然のすばらしさを実感することでしょう。



歌やダンス、ゲームを思い切り楽しみました。



薪を使っての火起こしや火力の調整に苦労しました。

▷問合せ 指導課

大空町に行ってきました

稲城市立小学校の5年生が、稲城市の姉妹都市である北海道大空町を訪問し2泊3日の教育交流を行いました。

稲城市と大空町は、昭和63年から児童の作品交流を中心に交流を始め、平成3年に姉妹都市提携が結ばれました。毎年夏休みに稲城市の小学生が大空町の女満別小学校を訪問し、冬には女満別小学校の児童が稲城市を訪れるという教育交流を行っています。

本教育交流は、大空町の児童、保護者、教職員、地域の方々等との交流経験を通じて、自己理解及び自国理解を深めるとともに、持続可能な地域社会や国際社会の担い手としての広い視野、コミュニケーション能力、豊かな感性等の資質を高めることをねらいとしています。

**<1日目>** 稲城市を出発し、羽田空港から飛行機で女満別空港に到着しました。その後、女満別小学校で歓迎式・ホームステイ先のご家族との対面式があり、それぞれのご家庭での宿泊(ホームステイ)をしました。

**<2日目>** 各ホームステイ先から女満別小学校へ登校し、歓迎集会を開いていただきました。その後、女満別小学校の児童のみなさんと「畑作コース」「畜産コース」に分かれて交流学習を行いました。「畑作コース」では、ジャガイモ堀り体験をしました。広大な畑がひろがる景色は圧巻でした。また、収穫したジャガイモをポテトチップスに加工する工場を見学しました。「畜産コース」では、牛舎見学をした後に、搾乳や子牛にミルクをあげる体験をしました。小麦を収穫した麦わらを丸めた麦ロール(牛のベッドになる)は、小学生の背丈ほどの大きさで、上に乗って記念撮影をすることができました。女満別小学校に戻り、交流給食でカレーライス等を食べ、ここで女満別小学校の児童及びホームステイ先の家族とはお別れです。午後は、パークゴルフの体験をし

8月20日(火)～8月22日(木) 稲城市立小学校5年生

たり、藻琴山の中腹から屈斜路を眺めたりしました。

**<3日目>** 「北方民族博物館」にてグリーンランドから北欧まで、アイヌ文化を含めた北方民族の文化とオホーツク文化について学びました。また、「オホーツク流氷館」では、「クリオネ」「ナメダング」「オオカミウオ」といったオホーツク海の不思議な生き物を見たり、濡れたタオルを凍らせる「しばれ実験」をしたりする等、貴重な見学や体験をしました。

参加した児童は、3日間の教育交流を通して、他地域の人々との触れ合いの機会に積極的・自主的に参加することができました。また、大空町を中心とした北海道の豊かな自然に触れ、自然に親しみ、自然を愛する思いを深めることができました。来年1月には、女満別小学校の児童が稲城市の小学校を訪問します。心からのおもてなしを行い、稲城の良さを紹介することを通じて、故郷である稲城の良さを再確認する機会となることを期待しています。



女満別小学校全校児童に歓迎していただきました。



麦ロールの上に乗って女満別小学校の児童と一緒に記念撮影をしました。

▷問合せ 指導課

食育講演会を開催しました

7月3日(水)に、稲城第五中学校1、2年生を対象に、栄養教諭(南山小学校所属)による食育講演会を開催しました。

学校給食ができるまでの流れ、学校給食の栄養素の基準、栄養士や調理員の想い等を映像を交えながら解説した後、実際に使用している調理器具を用いて調理作業の体験を行いました。

生徒の皆さんからは、「生産者や調理場の方への感謝の気持ちを持って残さずに食べたい」「体の成長のために苦手な野菜等も頑張って食べようと思う」などの感想がありました。



▷問合せ 学校給食課

国連を支える世界こども未来会議 in INAGIを開催しました

8月30日(金)に、地域振興プラザ及び稲城市議会議場において「国連を支える世界こども未来会議 in INAGI」を開催いたしました。

市立小学校12校の6年生代表24名が参加し、「住み続けられる未来の稲城市」をテーマに、グループに分かれてディスカッションをし、アイデアを出し合い発表を行いました。

詳細は12月15日号で紹介します。



▷問合せ 指導課



1. 教育行政報告

第8回定例会 8月6日

1. 教育行政報告

第7回定例会 7月9日

1. 教育行政報告

第6回定例会 6月18日

1. 教育行政報告

第4次稲城市教育振興基本計画策定委員会 7月18日

1. 教育行政報告

第3回策定委員会 7月18日

令和7年度から使用する中学校教科用図書の採択結果

教育委員会では、令和7年度から使用する中学校の教科書を、8月6日(火)に下表のとおり採択しました。採択した教科書は教育センター・中央図書館で閲覧できます。

中学校(令和6年8月採択)

| 教科書種目 | 発行者         | 書名                              |
|-------|-------------|---------------------------------|
| 国語    | 教育出版(株)     | 伝え合う言葉 中学国語                     |
| 国語    | 光村図書出版(株)   | 中学書写                            |
| 社会    | (株)帝国書院     | 社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土           |
| 社会    | (株)帝国書院     | 社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き          |
| 社会    | (株)帝国書院     | 社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して          |
| 社会    | (株)帝国書院     | 中学校社会科地図                        |
| 数学    | 東京書籍(株)     | 新編 新しい数学 ~MATH CONNECT 数学のつながり~ |
| 理科    | 大日本図書(株)    | 理科の世界                           |
| 音楽    | (株)教育芸術社    | 中学生の音楽                          |
| 音楽    | (株)教育芸術社    | 中学生の器楽                          |
| 美術    | 開隆堂出版(株)    | 美術                              |
| 保健体育  | 東京書籍(株)     | 新編 新しい保健体育                      |
| 技術・家庭 | 教育図書(株)     | 新技術・家庭 明日を創造する                  |
| 技術・家庭 | 東京書籍(株)     | 新編 新しい技術・家庭 自立と共生を目指して          |
| 英語    | (株)三省堂      | NEW CROWN English Series        |
| 道徳    | あかつき教育図書(株) | 中学生の道徳                          |

パラリンピック壮行会に小学生が参加しました

7月23日(火)、稲城市地域振興プラザにおいて、稲城市ホームタウンアスリートであり、パリ2024パラリンピック競技大会のpara卓球男子シングルス(クラス4)とダブルス(クラス8)に出場される七野一輝(しちのかずき)選手とゴールボール競技に出場される萩原直輝(はぎわらなおき)選手を応援するために、壮行会を開催しました。

両選手の母校である若葉台小学校と長峰小学校のご協力のもと、若葉台小学校の5年生、長峰小学校の4・5年生が事前に作成した応援の垂れ幕を会場内に掲出し、また、壮行会内で流した両選手の紹介動画には、両学校の児童が出演し、両選手に熱い応援を送っていました。

壮行会は、両校の代表児童が参加し、それぞれの選手に応援エールや寄せ書きした日の丸旗等を贈呈し、パリ2024パラリンピック競技大会での両選手の活躍を、会場に集まった市民約130人が祈念しました。

問合せ 産業文化スポーツ部スポーツ推進課

給食献立紹介「稲城市産農産物」

稲城市の学校給食では市内農家のみなさんの協力とJA東京みなみとの連携により、稲城市産農産物を積極的に提供しています。給食で使用する食材は日本全国から届きますが、稲城市で生産された食材は共同調理場への輸送距離と時間が大幅に削減されるため、より新鮮なものが届きます。

例えば、令和5年度に使用した玉ねぎのうち、稲城市産のものは5,080kgでした。これは学校給食で提供した玉ねぎの約1割に相当します。

また、長ねぎ、大根も稲城市産のものを1,000kg以上学校給食で提供しました。その他の野菜では、白菜、にんじん、トマト等も使用し、じゃがいもは6月19日(水)の「食育の日」に合わせ市内農家の方に依頼して納めていただいています。

さらに、秋には稲城市が誇る特産品の高尾ぶどうと新高梨を提供し、子どもたちの味覚を育てています。

「稲城の子ども達にぜひ食べてもらいたい」という熱い想いを胸に、市内農家のみなさんは野菜や果物一つ一つを大切に育てています。これらの地元の恵みを、今後も可能な限り学校給食で提供し、子ども達の健やかな成長をサポートしていきます。

問合せ 学校給食課

フォスターシティ市の皆さんへ、小・中学生がウェルカムスピーチを行いました

8月3日(土)に、姉妹都市であるフォスターシティ市のリトルリーグから12人の選手と家族の方々が稲城市にいらっしゃいました。その時の歓迎レセプションとして、稲城市立小・中学校の子ども達が英語でウェルカムスピーチを行いました。

小学生のウェルカムスピーチは、自己紹介から始まり、ランドセルや給食、運動会等、自分たちの学校生活や稲城市の文化財を紹介することを通して、日本の学校文化や稲城市の魅力について自信をもって伝えることができました。中学生は、フォスターシティ市の紹介から始まり、姉妹都市提携の締結式や稲城なしのすけ、大谷翔平選手の紹介等、相手意識をもったプレゼンテーションで会場を沸かせました。

小・中学生ともに素晴らしいウェルカムスピーチであったのはもちろんのこと、稲城市・フォスターシティ市の子ども達が、お互いの国や市のことについて興味・関心が高まる、素晴らしい交流の機会となりました。

問合せ 指導課

稲城第四小学校代表児童によるウェルカムスピーチ

稲城市立中学校代表生徒によるウェルカムスピーチ

歓迎レセプション後の集合写真